

平成 29 年度 薬物乱用防止啓発用ポスター講評

審査員代表 島根県立松江商業高等学校

教諭 楫 康治

薬物乱用には長い歴史がありますが、現代社会においては、インターネットや SNS 等を介して誰もが容易に薬物を入手できる悪しき環境があり、問題をより深刻にしています。特に近年目立っていることは「大麻への回帰」であると思います。危険ドラッグが様々な法規制により店頭販売が禁止されたことの反動か、古来から使用されている比較的ハードルの低い薬物といわれる大麻の摘発が相次いでいます。大麻は中央アジア原産の植物で、過酷な環境下でも成長することから、2000 年前にはすでに人類が使用していたとされています。その後急速に全世界に広まり、国連の調査によりますと、現在世界中の成人のうち 20 人に 1 人が毎日大麻を使用しているとのことで、大麻汚染の根深さがうかがえます。他県においては高校生や小学生による使用が報告されており、本県でも一層の防止・啓発が望まれます。

さて、今年度は県内の中学校・高等学校から 133 点の作品の応募がありました。作品数は昨年度よりも若干少ない点数でしたが、薬物乱用防止に対する生徒たちの関心の高さや切実さが伝わってくる作品が、数多く見受けられましたことに、大変力づけられる思いがしました。

中学校からは 126 点の応募がありましたが、一人一人の薬物に対するイメージが独創的な視点で表現されており、そのメッセージ性も力強く、分かりやすい構成の作品が多かったように思います。また薬物使用の恐ろしさのみを強調するのではなく、毅然とそれを拒否する意思を表明する作品もありました。高等学校からは 7 点の応募がありました。点数こそ少ないものの、的確な描写や巧みな構成や独創性の高い作品が見受けられ、時間をかけて制作された作品が多かったように思います。

審査に当たっては、ポスターの特性であるメッセージ性の高さ、およびそれを的確かつ効果的な標語で丁寧で見やすいレタリングで表現されているか。また全体の構成や配色は巧みか。近年流行しているイラスト風な表現に安易に流されず、独創的視点に立って効果的に表現されているか。全体的に力強い表現となっているか、などに力点を置いて選考いたしました。

今回知事賞を受賞された作品は、そのいずれをも満たしており、薬物に人生の大切な時間がむしばまれていくことへの警鐘を強く訴えるものでした。また緻密で的確な描写力と、敢えてレタリングを画面中央に配して、強くメッセージを発している点で優れた作品となっていました。他の入賞作品も時間をかけて丁寧に仕上げられており、好感の持てる作品となっていました。お忙しい中、指導にあられた先生方、またそれに応えて熱心に制作された生徒の皆さんの努力に惜しみない敬意を表します。来年度も創造性豊かな作品が多数応募されますことを祈りつつ、講評といたします。